

令和6年8月1日

令和6年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園
大阪情報ITクリエイター専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園 大阪情報ITクリエイター専門学校、学校関係者評価委員会は、令和5年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下の通り報告いたします。

1. 実施日

令和6年8月1日（木）

2. 学校関係者評価委員

長谷川 徹 氏（株式会社 オーティエス 取締役社長）
山本 利彦 氏（株式会社 ディープラス 代表取締役）
八尾 一廣 氏（株式会社 MC企画 管理部開発課主任）
西端 一晃 氏（株式会社 プロモ 副部長）

（事務局）

宮路 信美（大原学園難波校 校長）
藤川 宏明（大原学園難波校 部長）
山本 省二（大原学園難波校 課長）
川上 譲司（大原学園難波校 課長代理）
川畑 増知（大原学園難波校 課長補佐）
富山 悠生（大原学園難波校 課長補佐）
田村 裕一（大原学園難波校）
上熊須 展（大原学園難波校）

令和5年度自己点検・評価の概要

(事務局)

大阪情報ITクリエイター専門学校の2023年度における自己点検・評価については、全般的に良好な結果であった。

学校運営は意思決定システムが確立されており、円滑な運営が行われている。また、教育理念に基づいた運営方針が明確に定められており、教育理念を達成するための事業計画の策定、各種研修制度の確立を通じて有為な人材育成が行えている。

また、学校運営として、予算計画・執行は規定に従って適切に行なわれており、財務状況も安定している。

昨年度は、学校関係者評価委員の皆様より、「退学率の低減」、「教員の資質向上」、「施設・設備・教育用具等の整備」の3点に関してご助言を頂戴し、重点的に改善に努めてきた。

具体的な取り組みとしては、AWS研修、貸与PC導入準備、ゲーミングマシンの追加導入、学生指導研修などを実施した。教育成果として情報処理国家資格合格割合90%超並びに、50%の学生が2科目以上の資格を取得した。クリエイター・マンガ・イラスト分野においては、大阪市役所の防犯ポスター等を手掛けた。声優分野においては、全員がプロダクションに合格するなどの目標を達成した。

2024年度においては、引き続き教育目標の達成並びに、昨年から継続している課題対策に加え、新たな重点目標を挙げ、特に学生指導力は重点課題とし、更なる教育環境の充実を図るべく各種取り組みを行う計画でございます。

令和5年度 重点目標①

退学率の低減

<現状・達成指標>

達成度合 70%

事業計画における最重要課題の1つとして、退学率の低減に向けた取り組みを強化している。

近年、精神疾患等で退学を余儀なくされる学生が増加している。

退学可能性がある学生の早期発見のために、教員の学生指導力（コミュニケーション能力）の向上、事例に基づく指導方法の確認、担当者間の情報共有を実施している。

<具体的方策>

ご家庭と連携した指導を実現できるように、退学の兆候が発見された段階で、保護者等との連絡を密にとるようにしている。また、早期の段階で管理者含め指導に入るなど退学者の減少に努めている。

<学校関係者評価委員からの提言>

(オーティエス 長谷川委員)

具体的方策は評価できる。

精神的な面の早期発見は、日々のコミュニケーションも大事だが、可能なら複数の職員で担当された方がより良いと考える。また専門のカウンセラーを設ける方法も検討されるとい。

(ディープラス 山本委員)

具体的方策は良いと思いますが、精神疾患等の理由の学生は職員への負担は大きいし対応しきれないので、専門医にかかる事、専門医のアドバイスに合わせる等対応するしかないかと考えます。職員が特定の学生に対応する時間が長すぎて疲弊し他の学生への指導力定価が懸念されます。専門のカウンセラーを雇う事を勧めます。

(MC 企画 八尾委員)

具体的方策は継続頂きたい。保護者との連携も重要だと考える。一方で保護者の考えも様々な為、定期的な学生面談（年3回等決めて）を行うと良いと考える。精神疾患がある学生に対してはやはりスクールカウンセラー等、プロの方を雇うことをお勧めする。

(プロモ 西端委員)

具体的な対策がとられている点については評価ができる。

メンタル等については早い段階のキャッチアップが必要である。

企業においても定期的に面談を実施している。プレッシャーを与えないように仕事の進め方を行っているので、課題の提出方法や期間を早めに告知して対応する等の工夫を検討されれば良いかと考えます。

令和5年度 重点目標②

学生相談

<現状・達成指標>

達成度合 70%

主に個別相談を通じて個々の相談にのってきたが入学者数の増加および留学生の増加によって、担任ひとりあたりの負担が大きくなっている。また、対応する教員のスキル差により相談事項の解消の可否が異なるためスキルアップが必要である。

<具体的方策>

学生のニーズが多様化し、教員の学生指導に求められるスキルが高まっていることから、学園共通の教員研修への参加に加え、学生指導力に特化した研修を実施している。更に、自部署以外の管理職・ベテラン教員による講義研修も実施を計画している。

<学校関係者評価委員からの提言>

(オーティエス 長谷川委員)

自部署以外の管理職やベテラン教員による講義研修は良いと考えます。

学生ニーズが多様化している為、担当職員のスキルアップは必須。また、必要があれば担当職員だけでなく他分野の教員が相談を聞ける体制で取り組んでいくと良いと考えます。

(ディープラス 山本委員)

方策については継続することが大切。相談に対応するためには、チームで協力することが不可欠でメンバーの強みを活かした分担体制を構築し、知識共有を促進することで、より効率的な解決へと繋がる。特に、現場ではリモートワークが増える中、コミュニケーション不足による問題を解消するため、オンラインでの交流機会を積極的に設けることを行っており気軽に相談できる場を設けることで、社員のモチベーション向上にも繋がりますので参考にしてもらいたい。

(MC 企画 八尾委員)

具体的方策は継続頂きたい。昨年度と同様になるが、学生指導（対応）を複数の大原職員で行った方が良いと考える。声優俳優系コースの様に担任（大原職員1人）と非常勤講師だけでなく、授業は担当しなくても学生がコミュニケーションを取れる大原職員がいた方が良い。今のところは大きな問題はないが、今後のことを考えると双方（学生と大原学園）にとってトラブル回避にもなると考える。また精神疾患がある学生に対してはスクールカウンセラー（非常勤でも可）を置くことも検討した方が良いと考える。

(プロモ 西端委員)

トレーナー制度を取り入れている会社もある。当社においても1年目の社員に2・3年目の社員をメンターとしてフォローさせて、社員同士のコミュニケーションをとっている。学内においても上級生が下級生のフォローをして教師だけでなく相談できる環境を整えたりされれば良いと考えます。

令和5年度 重点目標③

課外活動に対する支援体制を整備しているか

<現状・達成指標>

達成度 50%

情報校内の4つの分野のうち、クリエイターやマンガの分野では外部コンテストに出展し受賞をしたり、市役所や消防局、警察署などとタイアップした啓蒙活動に貢献したりしている。一方で、情報処理や声優分野ではこれといった課外活動はクラブ活動程度しか行えておらず、今後の課題としている。

<具体的方策>

校内学習を教育の中心としてきたが、クリエイターやマンガ分野では外部コンテスト、産学官の連携が図れるようになってきた。今後は文科系のクラブの設置計画を検討している。

<学校関係者評価委員からの提言>

(オーティエス 長谷川委員)

文科系クラブの設置計画は良いと考えます。

コースの垣根を超えて目的を達成するようなサークル。例えば、日本アントレプレナー大賞等の大きなコンテストを狙うような起業向けのサークル。IoTをテーマにしたコンテスト等開発目的のサークルなど、情報コースを土台に他分野のスキルを加えていくサークル設置を検討するのも方法の一つかと考えます。

また、e-sports等の趣味を共有しコースの垣根を超えたサークルも学園の活性化には良いと考えます。

(ディープラス 山本委員)

生成AIなどの活用を視野にいれた教育も今後は必要となる。生成AIの技術は日進月歩進んでおり、生成AIのプロンプトをどのように出力するのが今後クリエイティブな業界でも求められる。また、今後のCG系のソフトウェアもパーツごとにAIが書き出しながらバリエーション増やした表現ができるソフトウェアが充実していくと予想しており、これらを扱える人材育成の検討も必要。

(MC企画 八尾委員)

コンテストに関しては、今後も参加できるものは積極的に参加して頂きたい。

またクラブ活動で映画部などがあれば、作品の応募もできるのではないかと考える。声優俳優コースの学生が演者やナレーション等を担当し、クリエイターコースの学生が映像撮影や収録、編集を行う。他のコースの学生でもクラブとして映画に興味がある学生は参加してもらえれば学校として盛り上がり、且つ課外活動として実施できるのではないかと考える。

(プロモ 西端委員)

コンテストに積極的に参加されているのは良いと考える。学内だけでなく社会人やプロも参加しているコンテストに挑戦していくと力がついてくる。

また、コースとのつながりにおいては、Web業界においても動画の案件が増えており、ナレーターをアサインして制作しているので御校においては声優の学生にナレーターを担当してもらい制作しコンテストに応募等も検討ください。

全体評価と総括

(学校関係者評価委員)

今年度重点的に取り組む項目として「退学率の低減」「学生相談」「課外活動に対する支援体制を整備しているか」をあげられている。大阪情報ITクリエイター専門学校が目指す実践的教育について、ニーズや価値観の多様化に対応できる体制の構築を目指されるとよい。退学率の低減について、理由は多岐に渡ると想像するが、教職員の資質向上は主に専門的な技術的スキルに特化したものになることが予想され、学生のメンタル面のフォローはスクールカウンセラー等を配置されることや外部研修にて教員自身が研鑽されるも検討されるとよい。今後も学校関係者評価委員一同、客観的な視点から様々な提言を行い、大阪情報ITクリエイター専門学校が社会の信頼を得られるよう協力したい。

(事務局)

大阪情報ITクリエイター専門学校は、商業、工業の課程を有し、社会情勢の変化に対応することが求められており、常に委員の方々にご助言を賜りながら社会で即戦力となる人材育成を担って行く所存である。

専門教育の提供のみならず、人格の陶冶を柱とした教育目標達成のために、教職員は職能の向上に努めるとともに、今回のご提言にあった、学生指導の面においても個々に寄り添った教育を提供できるように努めたい。

文責：川上 譲司